



# 農業委員会だより

■発行人 飯山市農業委員長 松永晋一  
■編集 飯山市農業委員会 情報委員会

飯山市  
農業委員会事務局  
飯山市役所農林課内  
電話：62-3111  
(内線261)  
FAX：62-6221

17.9

No.226

## 北信州農村女性のつどい in 山ノ内町

今年で17回目の北信州農業女性のつどいは「農業と地域の活性化を進めよう」をテーマに、8月25日山ノ内町において北信地域の6市村の農業関係者が一堂に会し、先進事例や活動を共に学び、今後の方向等を考える場となりました。



講演は原村の農業経営士・農村生活マイスター・認定農業者であり、村議会議員でもある宮坂早苗さんの「農業の多様性と地域の活性化」と題してのお話でした。  
宮坂さんは千葉県出身で結

婚を機に、原村で花き農家をしていたご主人の実家へ移住しました。そして美味しい野菜を作ってみたいし、子育てしながら働ける環境にも魅力を感じ、子供の保育園入園を機に就農しました。そのとき家事と育児を含めた就業規則を自分で作り、義父母にもお給料を支払う形にしたところとても喜ばれたそうです。

◆農業はいろいろな違いがあっても働く環境をつくり、生活のバランスを取ることが出来る多様性に満ちているということ。◆いま多くの非農家の若者が農業という職業を選択しようとしているとき、「できる」「稼げる」を伝えなくてはもつたないということ。  
◆遊休農地を増やすと食料と住環境、里山の美しい景観を失ってしまうということ。

最後に「オックスフォード大学の教授の言葉で、あなたはあなたの食べたものでできている」とあります。自分

をどういう風に作っていくか、より良い選択ができれば良いなどの思いで日々色んな事に挑戦しています。」とのお話でした。

事例発表では①志賀高原森のふくろうコカリナ合奏団の「コカリナを通じた地域交流」②中野市豊田の松野奈月さんの「地域おこし協力隊から果樹農家への転身」では、「どれだけ大変で辛くても食べてくれる人の笑顔を想像して仕事を、いつでも明るく前向きな農家のかあちゃんになる！」との決意表明がありました。

農業は多面性・可能性を持つていてとてもやりがいのある仕事である事を強く感じました。  
情報委員会 酒井智恵子



左から原村の宮坂早苗さん、志賀高原森のふくろうコカリナ合奏団の代表者、中野市の松野奈月さん

## 北信五市農業委員研修会報告

8月28日に須坂市の須坂温泉古城荘において研修会を実施しました。

初めに講演として、「新制度移行後における農業委員会の果たす役割について」と題して、長野県農業会議事務局の小林局長よりお話がありました。

次の事例発表では、千曲市農業委員会の瀧澤会長代理と農地利用最適化推進委員の北條さんより「荒廃農地解消の取組み事例」として、①中山間地を開墾しての「ワインぶどう栽培」②農地中間管理事業を活用した「麦・大豆栽培」③新たな栽培方法を導入した「あんず栽培」について発表がありました。



## 管内視察について

今年の管内視察は7月28日に太田地区、岡山の飯山国営農場2ヶ所、常盤地区の計4ヶ所の計画で出発した。

最初は太田地区の20代の木原翼氏のワインブドウ園であるが、移植を始めた3年前にも視察に訪れている所であり今回は2度目の視察である。ここは元グラウンドであり肥沃でない土地で、高さ2.5mの垣根作りで2.5mのほ場である。機械化にはまだ至っていないため手が足りない時には数人雇うという。種類はメルロー(赤)、シャルドネ(白)の2種類で、この冬は積雪2mを超えたもののブドウの木は異常なしで、多雪地域での栽培も問題なしと実証された。今年初めて実をつけたと



いうブドウは「はつきり言つてマズイ」そうで味が良くなるにはまだ5〜7年かかると言う。また生食用のシャインマスカットの栽培も始めたとのこと。

次は飯山国営農場にある「フジすまいるファーム飯山」の作業場とほ場を視察した。大根の作付けを主にした2.5mのほ場は道路の両側にあ



るため作業はしやすい。また木島地区にも70坪のほ場があり、作業は作付けと消毒以外出来るだけ手作業で行うそう、これは雇用している障がい者に収穫・洗い・選別・箱詰といった工程を教えるため、私たちにいろいろ説明してくれた。



視察3ヶ所目は、さらに車で2〜3分ほど走った所にある木内順一氏の「ひぐらし農園」である。夏野菜1.5畝、秋野菜1.7畝、直販が主体で今のところ予約を含めて200人ほどあるという。

畑の中で最初に目に入ったのが油絵であった。私には写真のように見えみごとな油絵であった。これは冬季の間に描くという。

畑にはキャベツ60坪のほか、レタスやハーブ等の作付けがしてあった。実のなるものは



作付けしないのかと聞くと、動物に荒らされるため作らないという。また娘のママ氏は自家製ハーブティー作りもしている。この「ひぐらし農園」は仲の良い家族経営という印象が強かった。



最後は大関橋近くの常盤堤防の外ほ場にある丸山和義農業委員の枝豆畑である。4〜5年前に一部開墾し現在の1.2畝にしたという。早生種



から晩生種と作付けてあり、この他に少し離れた所にも8坪ほど作付けしてあるという。

今回ここで枝豆専用のハーベスターという機械を使い実際に収穫させてもらった。機械化により面積の拡大、作業効率の向上、労力の削減が大幅に図られていることがよく分かった。

今回は4ヶ所のほ場を短時間での視察であったが、研究努力している姿や個性を出し頑張っている人たちを見て、当たり前ではあるが苦勞している姿は本当にすばらしいと改めて思った。これからも頑張っていたきたい。

情報委員会 服部彰夫